

6月30日 2013(平成25年) 主日礼拝

礼拝開始: 午前 11 時

司 会 : 片岡洋一 兄
 奏 楽 : 館 節子 姉
 おいのり : 平松友子姉
 さんび : 新聖歌 156 (われは主にありて楽し) 1・2・4 節
 カルバリーチャペルの信仰宣言
 聖 書 : 詩篇 23 篇 1~6 節 (朗読: 下岡晶子姉)
 音 楽 : 倉知 契 牧師
 メッセージ : 「 聖書の伝える第二の人生 」 倉知 契 牧師

さんび と 献金 : ♪ 明日はどんな日か
 頌 栄 : ♪ 新聖歌 63 「父 御子 御霊の」
 祝 禱
 報 告

【瀬戸ニュース】

- ◇ 教会へようこそ！心からご歓迎いたします。
- ◇ 今週も祈禱会を大切に！
 - 木曜祈禱会: 朝10:30
 - 土曜 : 会堂清掃 10:30~、 11:15~準備祈禱会
- ◇ 宿題(祝大)今週もむさぼるように聖書を読みましょう！
 - Aコース : 使徒行伝6章~9章
 - Bコース : エステル記7章~ヨブ記18章
- ◇ 昼食後、賛美と祈りのとき「Worship&Prayer」を持ちます。
 1時間以内です。普段、なかなか祈禱会に来れない人も、
 ぜひ一緒に祈りましょう。また新しい賛美も紹介します。
 賛美の内に住まれる主のご臨在が溢れます！

◇次聖日礼拝奉仕者(2013年7月7日)
 [司会: 赤塚敏郎兄、いのり: 持田樹理姉、聖書朗読: 赤塚孝子姉]
 [ピアノ: 片岡立子 姉]
 [アシスト: 大神久美姉 & 大神美乃姉]
 [献金: 赤塚孝子姉、受付: 太田昌子姉]
 ◇PA: 平松章治兄 ◇週報編集: 片岡洋一兄
 ◇ホームページ編集: 大神真伸兄



「最も深い暗闇を通過するときも、主よ恐れませぬ。あなたはご一緒です。」

(詩篇二十三の四 TEV)

出会いという言葉を聞くと、必ず遠藤周作さんのことが思い出されます。私がまだ若い日になにかのことでお話を聞く機会があったのですが、そのとき、遠藤さんは出会いについて、「人と人との出会いは必ずその痕跡を残す」と言われたのです。それがどのような話のときだったのか、もう覚えていませんが、私にはとても大切なことを聞いたという実感がありました。

これは末盛千枝子さんの「ことばのともしび」(新教出版社)というエッセイ集に載っていたものです。末盛さんは、長崎26殉教者記念像で有名な彫刻家・舟越保武氏のご長女。絵本編集者の末盛さんは、東日本大震災のあと「3. 11絵本プロジェクトいわて」を立ち上げ、被災地に絵本を送る運動を広げておられるカソリックのクリスチャンです。彼女の文章を読んでいると、日々の出会いや出来事を丁寧に見つめている印象を受けます。たとえば、優しさとか潤いとかのことばを、「あの日のあの人のあの言葉に感じたのです」という表現が繰り返し出てきます。新聞の死亡欄からも思い出のエッセイを書いたりして、忙しいキャリアの方なのに、どこか慌てたり焦ったりしていない、ゆったりとした時の流れを感じさせるお方の本でした。先週お話した小説「沈黙」の遠藤周作氏とお父様が親しかったからお話する機会があったのでしょうか。「出会い」と聞くと、遠藤周作氏のことばを思い出すとは、なんとも羨ましいと思いましたが、しかし、美しい文筆と魅力あるご品性のうしろには、人知れない涙の日々がありました。

NHKのディレクターだった夫がある日、ふたりの小学生の息子を残して急死。その後長男はスポーツ事故に遭い、脊髄損傷で重度の障害者に。そして再婚した夫も脳溢血で倒れ、後遺症で話すのがだんだん難しくなっていると。

彼女の本を読みながら、人が人らしく生きることができるのは「出会いの痕跡」があるからなのだろうと思いました。それは試練や病気も含めてです。出会った人、出来事、マイナスさえも神の摂理と受け止め、抱きしめてゆくとき、その痕跡がいのちに輝きを与えるのではないのでしょうか。ちょうど主の御傷が人を癒すように…。